

| 区 分 | 内 容 |
|------------------------------|--|
| 議 題 | 県都まえばし創生本部有識者会議 令和6年度第1回会議 |
| 日 時 | 令和6年8月9日（金）午前10時～11時45分 |
| 場 所 | 前橋市議会庁舎2階 研修室 |
| 出 席 者 | <p>【委員：14名】</p> <p>石川委員、稲田委員、江口委員、大森委員、坂柳委員、清水委員、田中委員、橋本委員、前田委員、眞庭委員、森下委員、矢端委員、横田委員</p> <p>リモート参加：山形委員</p> <p>【前橋市】</p> <p>小川市長、細谷副市長、吉川教育長、阿佐美未来創造部長、藤田デジタル政策担当部長、宇次政策推進課長、高橋未来政策課長、大原文化国際課長、スポーツ課長代理 村岡スポーツ振興係長、近藤観光政策課長、田村障害福祉課長、望月こども支援課長、岡田こども施設課長、産業政策課長代理 須藤雇用促進係長、中野農政課長、塚田都市計画課長、林政策推進係長、政策推進係員</p> |
| <p>発言内容</p> <p>阿佐美未来創造部長</p> | <p>ただいまから、県都まえばし創生本部有識者会議・令和6年度第1回会議を開会いたします。</p> <p>私は、本日の司会を務めます、前橋市未来創造部長の阿佐美と申します。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>それでは、はじめに、県都まえばし創生本部・本部長の小川市長からごあいさつを申し上げます。</p> |
| 小川市長 | <p>皆さん、本日はお忙しい中、「令和6年度第1回県都まえばし創生本部有識者会議」にご参加いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>前橋市の未来を担う重要な議題について、皆さんのご意見とご助言を頂戴できればと考えております。</p> <p>この有識者会議は、第七次前橋市総合計画の進行管理において重要なPDCAサイクルのチェック機関として位置づけられています。</p> <p>本日は、令和6年度に実施しました重点事業の進捗状況を中心にご議論いただく予定です。特に女性活躍と若者の人口流出については、大きな課題であると考えています。女性が社会で活躍するための環境整備や支援策、若者が地域に魅力を感じ、定着できる仕組みについて皆さんのお知恵をお聞きしたいと思います。</p> <p>つきましては、委員の皆さんのそれぞれの専門的な視点から忌憚のないご意見をいただきすようお願い申し上げます。</p> <p>本日はどうぞよろしく申し上げます。</p> |
| 阿佐美未来創造部長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>また、本日は副本部長である細谷副市長、吉川教育長にもご出席いただいて</p> |

おりますが、時間の都合上、ご紹介のみとさせていただきます。

次に、今年度、新たに委員になられた方をご紹介します。

国立大学法人群馬大学 情報学部 教授 石川 真一様、社会福祉法人すてっぷ 理事長 坂柳 幸子様、公益社団法人 群馬県看護協会 専務理事 清水 奈保様、前橋市都市計画審議会 委員 眞庭 宣幸様、前橋の地域若者会議 委員 横田 奈穂様。

以上の5名となります。どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、市側の出席者についてですが、自己紹介については省略させていただきますが、冒頭ごあいさつを申し上げました小川市長以下、名簿に記載のとおり計22名となっておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。

資料は、次第下部に記載のとおりとなっています。

必要に応じてお手元でご確認いただきながら、ご協議をお願いいたします。

資料一覧

(1) 県都まえばし創生本部有識者会議委員名簿

(2) 県都まえばし創生本部有識者会議設置要綱

(3) (資料1) 第七次前橋市総合計画 令和6年度行政評価の概略

(4) (資料2) 令和6年度行政評価シート (全51事業)

(5) (資料3) 行政評価に対する意見等

(6) (資料4) デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ) 活用実績一覧

(7) (資料5) デジタル田園都市国家構想交付金 (デジタル実装タイプ) 活用実績一覧

(8) (資料6) 第七次前橋市総合計画第3期推進計画の見直しについて

(9) (参考資料) 第七次前橋市総合計画 (創生プラン) 令和6年度行政評価等

もし、不足のものがありましたら、挙手をいただければ、すぐにお持ちさせていただきますのでどうぞよろしく願いいたします。

本日は、任期の更新後初めての会議の開催となりますが、時間の都合上、恐れ入りますが、委嘱状を机上に配付させていただきました。併せてご確認をお願いいたします。

なお、本日の会議は山形委員のみオンラインの参加となりますので、ご了承ください。

また、本日進行の中で、11時15分に細谷副市長が退席をさせていただきます。また、小川市長につきましても、11時30分で退席をさせていただきます。会議の進行によっては途中の退席になるかもしれませんが、予めご承知おきいただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、次第の「3議事」に移ります。

| | |
|-------------|--|
| | <p>ここからの進行は、設置要綱第5条第2項により、共愛学園前橋国際大学の 大森委員さんに座長をお願いしたいと思います。</p> <p>恐れ入りますが、冒頭に一言ごあいさつをいただき、議事進行をお願いいた します。よろしくお願いいたします。</p> <p>みなさま、こんにちは。</p> <p>大変お暑い中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。</p> <p>この有識者会議を毎年続けてまいりましたが、この計画がきちんと履行され て成果を上げているかどうかという事で、一次評価は庁内でしていただいでい ます。それを受けて我々が議論をしたり意見をお伺いしたりして、それを踏ま えた上で最終評価をしていただくということです。前橋のまちをより良く していくという意味で非常に重要な会議と心得ているところです。皆さんから たくさんご意見をいただけたらありがたいと思います。</p> <p>今日の会議は、1時間30分を目安に進めていこうと思いますが、だからと いって遠慮なさらず、意見を出していただけたらと思います。本日はどうぞよ ろしくお願いいたします。</p> <p>では、着座にて進めさせていただきます。</p> <p>この会議は公開となっていますので、傍聴、撮影につきましては許可するこ とといたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>山形委員はオンラインで参加してくださっておりますが、移動中とのことで ご無理のないように。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、早速ですが、「議事1 第七次前橋市総合計画の進行管理（行政 評価）について」を進めていきます。</p> <p>冒頭事務局から説明をしていただきますが、ある程度説明の時間を長めにと っています。しっかりと説明をしていただいた上で、皆さんからご意見いただ ければと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、事務局からよろしくお願いいたします。</p> |
| <p>大森委員</p> | <p>【(参考資料)「第七次前橋市総合計画(創生プラン)令和6年度行政評価等につ いて」に基づき説明】</p> |
| <p>大森委員</p> | <p>ありがとうございました。</p> <p>いろいろな施策についても改めて知る機会にもなったと思います。</p> <p>それでは、ここから委員の皆さんからご意見やご質問等をいただきたいと思 います。今回も、事前にたくさんのご意見を出していただきました。本当にあ りありがとうございます。それに対して事務局で対応や返答をまとめているところ ですが、事前に出した意見以外の意見でももちろん構いませんし、出していた いただいた意見の中で、こういう風を書いてあるけれども更に聞きたいことやこれ では足りないということもあると思います。事前に出していただいたからとい ってここで話してはいけないということでもございませんので、ご自身のご意</p> |

見や今の説明と照らしているいろいろなご意見をいただけたらなと思います。どなたからでも結構です。手を挙げていただけるとありがたいのですが、よろしくお願いいたします。

皆さん見ている間に私からですけれども、2点です。

若者にも絡むかなという事ですが、創業が増えているという事は非常に素晴らしいなという風に思いました。群馬県全体でも増えているということで、とても良いことだなと思っているのですが、市としてもたくさんの方の支援をしていただいたり、仕組みを作ってくれているという風に思いますが、それに加えて、いろいろなチャンネルで、例えば群馬銀行さんや東和銀行さんも創業スクールをやっていたり、あるいはGISみたいなものもあったりとか、いろいろな機会が人が学んで創業に至っているケースがあります。前橋市としてはこういう取り組みをしています、だけではなくて、そういった市内あるいは県内で行われている創業に向けての学びや支援の仕組みをもう少し包括的に捉えて、創業が増えた理由というのが、もし、市の取り組みに加えて学びの機会があったらとか、群馬銀行さんで学んだからということがもし見えてくるのだとすると、更に支援していくというのも政策としてはあり得ると思います。これは意見ですけれども、増えた理由を起業支援と結びつけるだけではなく、もう少し包括的に、増えた理由を把握しても良いのかなと思いました。

もう1点は、深刻な若者の流出のお話で、これも流出超過数の900人というのは、プラマイでマイナスが900人ということですよ。実際に出ていっている実数というのはもっと多くて、そこから入ってきた子を引くから900人で留まっているという事だと思うので、もう少し実数で見ても良いのかなという感じはしました。入ってきてくれるのは嬉しいのでその実数を見て、どこから入ってきたとか、その子たちがずっといてくれるのかという問題もあると思います。

例えば大学生は、群馬県内だと6,000人いるのですが、3,000人は地元の子で、3,000人は入ってきた子です。3,000人は出ていってしまう可能性があるもので、一時的に来たからと言ってというところはあたりるので、もう少し実数で見ても良いような気がします。例えば15-19歳の年齢をみると、その年齢は15,000人いる中で900人、もちろんマイナス超過はよろしくないが、15,000人の900人はそんなに多くないと見えなくもない。でも実際に出ていっているのは、もっといるというようことが見えた方が良いような気がしました。これは意見です。

このような感じでいろいろご意見をいただけるとありがたいです。どなたからでもいかがでしょうか。

森下委員

事前に出した意見の重点事業No.28のところなのですが、前橋でも耕作放棄地がある、その対応についての質問だったのですが、回答で「耕作放棄地再生利用事業の補助事業があります」とあるのですが、これは国庫補助事業のことでしょうか。

| | |
|------|---|
| 農政課長 | <p>ここでいう、耕作放棄地再生利用事業というのは、県と市が行っている事業になります。県の事業にのれないものについては、市が事業を行っているものでございます。</p> <p>簡単にいいますと、耕作放棄地を再生するには、やはりお金がかかりますので、10アールあたり5万円という形で県の補助事業がでございます。</p> <p>その事業にのれないものについては、市が独自で10アールあたり3万円という形で助成をしているものでございます。例えば、業者の方で耕作放棄地を解消してもらったものも対象になりますし、自分で、トラクターを使って再生するものに対しても助成をしております。そのメニューによってその内容が違ってきます。</p> |
| 森下委員 | <p>ありがとうございます。</p> <p>それを踏まえてなのですが、私は転勤族でここが10か所目の勤務地です。全国の自治体のなかでも15位という記載もありましたが、実際いろいろな県を回らせてもらっていても、県都でこれだけ農業が盛んなのはすごいなと思っています。昭和村や長野原、嬭恋、それから川場村とかは耕作放棄地がない。長野原の酪農家の方が、輸入粗飼料が凄く高いので、自分で粗飼料を生産したいのだけれども、村内に売りに出される畑はキャベツ農家が全部土地を買ってしまうので、前橋市内の畑でもよいから紹介してくれないかという声はいただきます。</p> <p>あとは、昭和村の農家の方が規模を拡大したいということで、太田に物件があったのでご紹介したら、すごく喜ばれて、7ヘクタールくらいなのですが、すぐ長期契約を結びました。</p> <p>前橋以外にも群馬はすごく農業が盛んで、大規模農家の方で土地を求めている方がいらっしゃって、嬭恋の農家の方が規模拡大のため静岡に農地を求めたという例もあります</p> <p>皆さんできれば埼玉寄りにいくよりも、前橋で農地が確保できたらすごくありがたいとおっしゃっている方がいるので、国庫補助事業ですかと聞いたのは、前橋はすごく魅力のあるところで、土地もすごく広いです。今もやられていると思うのですけれども、是非ここを更に魅力あるようにしていただけると県内の有力な農家さんが非常に注目されるのではないかなということで、すみませんが、意見とお願いでした。以上です。</p> |
| 大森委員 | <p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> |
| 農政課長 | <p>少し補足をさせていただきますと、今土地の貸し借りという話がありましたが、前橋市でも遊休農地となっているところ、あるいは、高齢化によって土地を耕作できないところについては、農業委員会を中心に貸し手と借り手のマッチングというのも行っています。もし前橋市に土地がほしいという声がありましたら、是非そういったところでご相談を頂ければと思います。よろしく願いいたします。</p> |

| | |
|------|---|
| 大森委員 | <p>ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。 矢端さんお願いします。</p> |
| 矢端委員 | <p>農業をやっています、矢端 晴美と申します。よろしく願いいたします。 私が意見や質問させていただいたことは、お答えいただいたので、それ以外のことをお聞きしたいのですが、今、お話があった移住促進、農地を借りるといふ部分に対してです。実際に今アルバイトできている子が島根から来ているのですが、名古屋の子と結婚して、高崎市に住んでいます。</p> <p>なぜ高崎市だったのかと聞いたら、農業をやりたい、オリーブをやりたいということなのです。そこで、梅農家が減っていて、梅農家の後の土地が借りやすいので、高崎市に住んで、高崎で土地を借りたという話をしていて、残念だな、取られてしまったなと思いました。</p> <p>うちで、その子たちと前橋に住んでいる若者夫婦が話をしているところを横で聞いていたら、農業の話はさておき、これから二人とも妊娠、出産するので、今の妊婦に対する補助やこれからの子育てに関する情報を交換していました。すると、どうもこれは前橋の方がよっぽど良いということが分かってしまったというようなことを言っていたので、ちょっといやらしいですけども、そういう子育て支援や妊婦さんへの支援とかが、他の市と比べて前橋の方が良いと皆がぱっと分かるようなサイトにあげてもらおうとかがあると良いなと思いました。</p> <p>群馬県はこういうことをしていますと、サイトに載っているのですが、前橋はこんなことやっています、このお金をもらえますとか、そういうところは見つからなかったのです。若者はとにかく SNS でみるので、そういうところにあげてもらおうとよいなと思いました。</p> <p>それからもう一つですが、赤城の恵なのですが、うちも六次産業化でいろいろなところでお世話になっていて、職員さんも本当にやる気で有難いと思っています。前橋の農政課の方たちは、他の市の方たちともよくお会いするのですが、やる気があって、熱心で、本当にありがたくおもっているのですが、一つだけ例を挙げてお願いしたいことがあります。</p> <p>それは先ほどの利用権設定ですが、うちで持っている土地は1.5ヘクタールくらいで、30ヘクタールくらい借りているのですが、近年の課題は、土地はどんどん集まってくるようになったのですが、利用料、賃貸料が何十年前と変わっていないので、非常に経営を圧迫しているので、反当り8,000円から5,000円に下げたいと思ったのです。そのことを今借りている人達にお願いしたのですが、1軒の方が市に電話をして、「現在田んぼを借りるのに大体いくらくらい払ってもらえるのですか」という話をしたら、職員の方が、「単純に5,000円のところもあれば、8,000円、9,000円払っているところもありますよ」とそれだけの回答だったのですね。できればうちとしては、無料でも借りられる使用貸借というのがあるというのを一言言ってもらいたかったなというのがすごくあって、お金なんかもらわなくてよいから、とにかく作ってもらいたいという人もとても多くて、どんどんそういう状況になっていくと思うのですよね。</p> |

今のところ払っていますけれども、本当に農業経営が厳しいので、30年前から何分の1になってしまっている危機的な状況で、土地を借りることにこれだけお金をかけていくと回せないという状況があるので、市の方をお願いしたいのは、農業をしている人の立場で検討してもらいたい。例えば、質問が来た時に何でこの人はこの質問をしているのかというところまで考えて答えを出してもらえると非常にありがたいなと思いました。うちの話で申し訳ないのですけれどもよろしく願いいたします。

大森委員

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。どなたでも大丈夫です。前田委員お願いします。

前田委員

まず一つ、こども関係のことで申し上げたいと思うのですが、重点事業 No.4 で質問をいたしまして、事務局からお答えをいただきました。行政評価シートを拝見した時に思ったのですが、例えば不登校のこどもたちの問題のところ、パーセンテージがありました。行政評価シートの方には不登校児童生徒の割合が増加しているということで、3.27%、それから 2.52 や 2.86 とか、パーセンテージがありました。私は仕事の絡みで、学校に通えていないこども達のところに通う事が結構あって、一人ひとり顔が浮かびます。そうするとこの子たち、二点何パーセントととか、三点何パーセントと言われている子たちかなと思うと、こども一人ひとりの人数をちゃんと見たいと思いました。グラフにはありましたけれども、数字で知りたいと思って、経年変化の人数を教えてくださいということでお願いしました。それでお答えいただいたものが No.5 のところですが、人数が挙がっていました。やはり年々増えていて、最近では、小学校一年生から公立学校には行かなくて、別のところを選ぶこどもたちが増えてきています。そういう保護者はあちらこちら学校を調べています。条例をお作りになるということは聞きましたので、そういう時代に入ってきたという事を踏まえて、こどもの声とか現場の保護者たちの声と乖離しないものを是非作っていただきたい。現場に行ってみると、ものすごく変わってきているのだということが分かります。今年 NHK スペシャルで「学校の未来」という特集の番組が2回にわたってあり、文部科学省の官僚の方も出ていました。その中で従来の学校のシステムが現場の状況に追いつかなくなってきたというのが専門家の分析で出てきています。それを踏まえると、現場の声を活かさずして条例というのは、実効性どこまであるのかという点が思われます。その番組の中で例えば一例という事で、日本の学校で、山形県の天童市立天童中部小学校というところが紹介されていました。そこは、一斉授業を8割程度に抑えていて、こども自身で学ぶ時間を2割にしている授業構成で、こどもたちが自ら学ぶ力がついてきたし、こどもたちがインタビューに答えているのが、「学校が好き」、「面白い」とか、「家よりよっぽど楽しい」というのがいっぱい出てきていました。番組としてそういう構成をしていたのかもしれませんが、6年間やったら不登校の子がいなくなったというのです。一つの事例ではありますが、すごく重要な要素がそこに入っているかなと思います。そういう意味では、条例は今起こっている問題に後から対応するものではなくて、今

| | |
|------|---|
| | <p>現場で問題が起こっているその問題を起ささない状況に変えるための条例として作っていただければなという風をお願いしたいと思います。以上です。</p> |
| 大森委員 | <p>ありがとうございます。今前田委員が仰っていた現場というのは、主には学校現場ということでしょうか。</p> |
| 前田委員 | <p>学校現場だけではなくて、他県から注目を実はされているのですが、例えば群馬県は小さい規模ではありますが、オルタナティブスクール、フリースクールが増えています。それを気にして県外から見に来ている保護者達もいるのです。そういうところに子どもを通わせている保護者の声を生で聞いてみるとか、そのようなことも良いものを作る上でも重要な一つの声ではないかなと思いますので、例えばそのようなことも含めて聞いていただければと思います。</p> |
| 大森委員 | <p>ありがとうございます。</p> |
| 教育長 | <p>ありがとうございます。教育長の吉川です。</p> <p>確かに学校現場は本当に大きく変わっていて、保護者の方、子ども達、そして先生方の考え方もそれぞれ社会に応じて変化をしていると思います。これから二年間をかけてこどもの条例を作っていく間にはしっかりとその子どもたち、先生方、保護者の意見を聞くような取組をしていきたいと思っています。市立の学校を所管しているわけですけれども、そこに通う子どもたちだけではなく、フリースクール、私立の学校に通う子どもたちの声もしっかりと取り入れていきたいなという風に思っております。</p> |
| 大森委員 | <p>ありがとうございます。橋本委員お願いいたします。</p> |
| 橋本委員 | <p>橋本です。よろしく願いいたします。</p> <p>三つほど、質問させていただきたいのですが、最初に重点事業 No.2「個性を伸ばし、主体性を育む人づくり」のところで、全ての子どもが自分の力を伸ばすことのできる教育環境を提供しますという、そういう目的をもった授業ですと。事前に質問をさせていただいて、ご回答もいただいているのですが、このパワーポイント資料の同じく重点事業 No.2 に、特別支援教室の写真が載っていますが、これを見たときに、この環境は決してそれを目的としている授業には見えなくて、ちょっと衝撃的だったのですね。事前にお送りしたものに事務局の方から回答いただいているのですけれども、「生徒数が減っていることもあって空き教室が増えている、それによって教室は確保しやすくなると見込んでいますが、整備については特に検討していない」という回答を伺っています。部屋ができてくるのであれば、ぜひこの特別支援教室もしっかりとした教室にする検討は進めるべきだとは思いますが、そのあたりご返答を頂きたいなというのが一つです。</p> <p>もう一つは、重点事業 No.25「女性が活躍しやすい環境づくり」で、一次評価Cになっているところで、女性の正規雇用人数の目標値が130人で、実績値</p> |

はコロナ禍の2年間は半分くらいです。それに対して 目標値は130人と変動がないため、こういった点を見直していくべきではないかと思ったところで

す。
あと重点事業 No. 25 のパワーポイント資料の棒グラフのところで、女性の方にアンケートを取った結果だと思いましたが、「今の生活の中で時間的なゆとりや余暇時間を過ごせていない原因があるとしたら、それは何ですか」という質問に対して、突出している3項目が「平日の仕事が忙しい」、「賃金が少なく余暇に使えるお金がない」というところです。これは前橋に限った回答ではなく、日本全国、男性女性関係なくこういう状態だと思いますが、一方で、前橋市が取り組んでいる、女性が活躍しやすい環境づくりの内容を見ますと、どちらかというと子育て支援とか、そういったところに重点が置かれているような気がしていて、このアンケートの結果と少しずれがあるのではないかなと思っています。子育てももちろん大事で支援すべきだとは思いますが、それだけではないところに課題があるのではないかなと思っています。こういったアンケートもとっていらっしゃるのであれば、違ったサポートの仕方もあると思います。

こういった余暇時間を過ごせる、豊かに過ごすためには何が必要なのか、というところの議論を進めていただくのも必要だと思いますが、そういったお考えがいただけるかどうか、ご意見いただければと思います。

最後ですけれども、私の専門分野のところでもあって、評価が下がってしまっている重点事業 No. 38 「まちなかの魅力向上」です。成果指標の通行量調査による歩行者・二輪車通行量のところで、3年目を見ますと、目標値29,000人/日に対して、実績値が約10,000人/日ということで、およそ3倍の差があります。この29,000人/日という数字は、おそらく2018年度の実績値にプラスアルファしているのではないかなと思うのですが、この測定の方法について、事前にご質問させていただいた次第なのですが、回答の中には「今回の計測はコロナが5類感染症に移行された5月28日火曜日だった」ということですが、2019年に行った時の曜日は同じ火曜日であったのか、同じ時間だったのか。こういった定量的な計測を行う場合は同じ条件で計っていないとあまり意味がないと思っています。どういう決まりで測定が行われているのかお伺いしたいと思います。

もう一つご検討をお願いしたいのは、行政評価シート89ページの一番下のところに、「まちなかにおける新規出店や既存店舗に対する補助件数(年間)」というのがありますが、目標値がずっと30件です。それに対して実績値は1年目から61件、84件、117件と、目標値を大きくオーバーしてたくさんの出店がされている状況があります。たくさんの方がまちなかにお店を出すという機運が高まっているということなのですが、ここに対しての評価というところがあまり出てきてなくて、あくまでも通行量とか、そういったところに注力し過ぎているのではないかなというところです。評価の仕方も少し見直しされた方がよいのではないかなという質問になります。

| | |
|----------------|--|
| 大森委員 | <p>ありがとうございます。特別支援を中心とした教育環境の話、それから、女性活躍の支援の方向性のお話、そして、まちなかの現状把握の方法についてということですが、それぞれご回答をお願いします。</p> |
| 吉川教育長 | <p>特別支援に関してご質問ありがとうございます。</p> <p>現在特別支援学校の生徒さんが増えてパンパンな状況でございまして、今後整備が必要だろうという風に考えております。また、一般の学校の方でも通常学級よりも我が子を特別支援学級で見たいという保護者の方が増えておりまして、そちらの整備もしっかりとしていかなければならないと思っております。</p> <p>ここに書かれています特別支援学級の整備については特に検討していないのが担当者の想いと同じかどうかは分かりませんが、何とかしたいという思いは担当者も持っております。</p> <p>空き教室があるので、その空き教室を上手く使うにはどうしたら良いのか、教育委員会としても空き教室の使い方なども現場といろいろと意見交換をしながら、全てのこどもたちにとって良い環境を作っていかなければならないと思っております。特別支援教室の設備に関しても今後拡充をしていきたいと思っております。</p> |
| 大森委員 | <p>ありがとうございます。建築家の観点からみれば、そんなにかけなくてももう少しきちんとリノベーションができるはずだよなという観点ですよ。</p> |
| 橋本委員 | <p>パーティションでは可哀想すぎるかなと。</p> |
| 小川市長 | <p>補足にもなるのですが、基本的には入学する人数が事前にわかっているならば、その人数に応じて教室を用意するという対応しているのですが、1年生などは年度が始まって、普通教室にいた子がやっぱり特別支援が必要かなということで、当初の予定した人数よりも増えてきてしまうようなことも結構あります。そうすると、どうしても部屋の確保にしても、対応する教員の確保にしても足りなくなってしまうため、その年度は教室を二つに分けてということも生じてしまうことがあるので、年度途中でもしっかりと対応ができるようにしていけたらなというのは感じております。</p> <p>これは前橋だけではないと思うのですが、全体の支援する児童生徒数は増えているので、対応が必要な大きな課題だなどは認識しているところではございます。</p> |
| 大森委員 | <p>ありがとうございます。女性活躍についてはコメントがありますか。</p> |
| 産業政策課 須藤副参事 | <p>産業政策課の須藤と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>女性が活躍しやすい環境づくりについてですが、産業政策課としましては、仕事と生活の調和、ワークライフバランスが大切ということで、そこに主眼をおきまして、働く全ての方々が、仕事と育児、また介護、趣味や学習、休養、地域活動といった仕事以外の生活との調和を図りながら、その両方を充実させ</p> |

るような働き方、生き方などが実現できる社会というものを目指して様々な事業を行っております。

その中で、女性が活躍する社会というのは大変重要なことだと考えておりました。現状といたしますと子育て中の方の中には、例えば、子供がまだ幼く、フルタイムで働くことが困難な方がいらっしゃいます。そういった方については、まずパート等で社会復帰をしていただいて、時間の融通が効くタイミングで正社員を目指すという考え方を持つ方も増えていると、前橋市にて指定管理で行っておりますジョブセンターまえばしで実際に支援にあたっている職員から寄せられた現場からの声となっております。これは就職感の変化だけでなく、多様性や人手不足を背景に、これまでフルタイムでの雇用しか受け入れていなかった企業もパート等の採用を始めたことや雇用条件を問わない育児休暇制度、時間短縮勤務といった雇用環境の改善が図られてきたことも要因として挙げられ、これまでの雇用環境では断念していた方でも、早期に社会復帰を実現できる環境が整備されてきたという点において、前向きな数字としても改善されてきていると捉えているところでございます。一方で、全ての市内企業において雇用環境の改善が図られているわけではございませんので、企業を対象としたワークライフバランスの整った働き方推進に向けた取り組みを並行して進めつつ、就職希望者に対しては、引き続きジョブセンターまえばしでのキャリアカウンセリングを通じて、相談者一人ひとりの考え方や価値観を尊重した丁寧な支援に努めて参りたいと考えております。なお、女性の方が働きやすい時間に働ける取り組みとして、今年度から在宅ワーク研修をセミナーで実施しております。女性がより働きやすい環境整備を心がけている状況でございます。以上です。

大森委員

ありがとうございます。

おそらく橋本委員の質問の意図とは違う回答だったかもしれません。

支援の方向性が子育てはもちろん大事ですし、子育てをしながら働ける環境も必要だと思いますが、そのニーズとしては余暇であるとか、そういうところが出てきているというところで、なかなかそういった点について施策を打てていないというところでしょうか。

小川市長

女性が活躍しやすいと言いますと、どうしても子育てだとか働き方が取り上げられやすいと思いますが、やっぱりそれだけではなくて、まちづくりもそうですし、色々なところに関わらないと、本当にこの目指す社会というのは実現できないと思っています。女性が活躍しやすい社会は女性だけではなくて、これは男性もそうですし、子どもとか高齢者とか障害がある人も活躍できる社会に繋がることだと思いますので、そこは本当にこれだけという切り口ではなくて、橋本さんがやっけていただいているまちづくりであったり、観光振興であったり、企業の皆さんが動いていただいていること、地域づくりでやっけていただいていること、農業振興もそうですけれども、全部が繋がっているという広いメッセージがさらに必要かと思っています。

政策としては、それぞれのセクションでやっていることなのですけれども、

ちょっと切り出しがここだけというふうに捉えてしまうのは、やっぱり私たちの見せ方としても少し足りないのかなと感じました。ありがとうございます。

大森委員

今の担当課からの回答は 26 番のところだと思うのですが、ご質問していただいた方の違和感は、この回答では、まだ十分に答えられていなくて、どこまで行政ができるかという問題も含んでの話になりますが、例えば、企業の中には、パートタイムで正規雇用というところも出てきています。「子育てをしているからパートタイムがいいのだ」というのは、今、現状としてそれしか選択肢がないから、そうになっているわけであって、正規雇用とフルタイムがイコールではないというところで働き方を考えなくてはいけないと思います。

前田委員どうぞ。

前田委員

ありがとうございます。

橋本委員が仰っていただいたことをこれから申し上げたいなと思っていたところでした。

今、お答えいただいた事務局の考え方を聞いていて、大森座長が仰ったように、現状、女性が子育てをしているからパートでしか働けない。そこに合わせてやっているのであれば、これを読んで思ったのですが、日本が 1980 年、90 年代に少子化が大変だと言って、その時に女性が両立支援できるようにしようと国が動き出して、仕事と子育ての両立支援のターゲットが女性だったわけですが、しばらくやっていて、全然うまくいかなくて、これは性別関係なく男性も働き方を変えてワークライフバランスをとっているのを見てきているので、ここにあるパートで復帰するという話は、まさに M 字型就労が増えていると読めるような状況で、これをやっているという視点から抜けられないのですね。

そのケア役割は女性で、そして女性が働くにはどうしたらいいかという問題を抜け出して、性別関係なく、例えば、こどもが幼くてフルタイムで働くことが困難という点を女性問題ではなく、男性も同じと捉えていただいて、男性でもこどもが小さくて大変だから、労働の時間が短くなっても正社員で働きながら 2 人で両立して頑張るというスタイルを作る方にシフトしていかなければいけない。それができていないから、ここまで人口減っているというのは、もう分析されていることなので、視点を変えていただく必要がすごくあるのではないかと思います。

専門的な言葉で言うと、「マミートラック」という言葉があるのですが、マミートラックそのものが現場にあるという説明が、図らずもされているような感じがあります。

8 行目ぐらいに、「これまでの雇用環境では断念していた方」というのをこれまで断念させていた雇用環境を変えるのが今やるべきことであると思います。

それからもう一つ、この話はずっと男女協働参画審議会で何度もやってきて思っていたのですが、担当でご説明していただくのは産業政策課と共生社会推進課になっているのですが、労働問題をしっかりと扱っていただける部署がずっと無いという議論があつて、でも産業政策課でやっていただいていると思

| | |
|------|--|
| | <p>うのですが、ただ、今は現場にある働き方をどうするか、企業にどういうふう に理解して動いてもらうのかというのをやっていく労働の担当課が、前橋市は 若干弱くないかなというのが何年も何年も議論の中にありました。前橋市に聞 いたところ市でやれることには限界があるという答えがあったものですから、 その旨、労働局の方にお聞きしたところ、市でも労働施策、やれることは十分 にありますというお答えでしたので、やれることたくさんあるのではないかと 思います。ですので、視点のところをもう一度お考えいただくことと、すごく 大きな話になってしまいますが、担当部署のあり方についてもお考えいただ けたらどうかと思います。以上です。</p> |
| 大森委員 | <p>ありがとうございます。 (細谷副市長、退席) 市長がいていただけるのがあと10分くらいですので、ご意見まだの方はい かがですか。 坂柳委員、お願いします。</p> |
| 坂柳委員 | <p>初めて参加させていただきます。 障害者福祉サービスをしております、坂柳と申します。 障害者の活躍推進を重点事業にさせていただいていることはまず良かったな と思います。重点事業 No. 17 につきまして、いくつか意見や質問等させてい ただきましたうち、障害者就業・生活支援センターでの支援は前橋の指標に入ら ないかという質問をさせていただいたところ、やはり委託の事業が労働局と県 の委託なので、前橋の指標とは少し違うという回答をいただいて、そこはなる ほどと納得したのですけれども、障害者就業・生活支援センターは、前橋市の 総合福祉会館の中にあり、就業の支援をずっと頑張っていて、2023 年度には 74 件の就職支援が成立しております。 こちらのパワーポイントの説明もいろいろ伺って、本当に幅広く支援がされ ている中で、重点事業 No. 2 で、フリースクール等への交通費の補助制度が始 められたというのを見まして、事前質問の時には思いつかなかったのですが、 実は障害者の方も就職をするマッチングのために、職場実習というのをされて います。実習することで、マッチングが上手く行って、定着ができる職場に出 会えるという方もたくさんいるのですが、この実習は、もちろん給与も交通費 も出ない状況です。実習長野原の酪農家の方がの保険だけは、障害者就業・生 活支援センターの方でカバーするのですが、交通費の補助があると今以上に実 習に繋がりがやすくなりますので、前橋市の制度にできると労働局と県のみ の仕事だけではなく、前橋市からダイレクトに支援ができるような施策になるの かなと考えました。こちらで書いていなかったことだったものですから、手 を上げさせていただきました。実際に、職場実習の支援は、実は高崎市や富 岡市がやっているということも聞きましたので、ご検討いただければありが たいなと思います。</p> |
| 大森委員 | <p>ありがとうございます。貴重な情報と一緒にご意見ありがとうございます。 他にいかがでしょうか。</p> |

| | |
|----------|---|
| 石川委員 | <p>石川委員お願いします。</p> <p>群馬大学の石川です。</p> <p>初めてなのでどういう議論になるのかと思っていましたが、極めて重要な議論だと思いますけれども、私は事前の意見ございませんと通知したのは、私の専門からタッチできる内容が全くないからです。大学にいますので学生のことはお話できると思いますけれども、自然環境保全が専門なので、前橋市内には赤城山がありますけれども、赤城の自然観光としてどうするか、これは何十年来何も動いていない状態です。群馬県がやっておりますがそこでの協調を図ることがどこにも出てきていないので、事前の資料には何も意見が言えない状態でした。今後是非ご検討いただいてご説明いただければと思います。</p> <p>それから、学生のことは最初に大森委員がおっしゃられたように、流入人口をどう増やすかが重要な観点だと思います。新潟県は52人とありますけれども東北からも学生はたくさん来ます。結局北から流れてきて東京に流れ込んでいくというのが、嫌ですが、この流れなので、その流れの中で前橋市の人口をどう維持するかという観点で、流入のこともどう考えるかというのが行政として重要だと思います。</p> <p>もう1点は、流入の中でいわゆる定住人口としての流入とインバウンドや観光などの一時的な流入のことも重要で、一時的な流入は、収益増になります。今ここで書いてある内容はほとんどが内需で、県内でどこを伸ばすかという話を中心なのでこれは結局県としては収益増にならないと思います。収益を増やしていくには、外から入ってくるのが重要だと思います。その中には外国人というのがキーワードになると思いますし、国内的には若者をどうやって呼ぶかということで、コンテンツやアミューズメントなど、そういったものに対して若者は物理的に動きます。そこを前橋市が何をやっているかがよく分かりません。その辺りが今回何も発表がなかったので意見はございませんとおっしゃいましたが、今後もし何かございましたらお願いいたします。以上です。</p> |
| 大森委員 | <p>ありがとうございます。</p> <p>流入、流出についてはおっしゃるとおりだと思います。</p> <p>自然環境や自然観光、赤城山の問題などで何かコメントはございますか。</p> |
| 塚田都市計画課長 | <p>ご質問ありがとうございます。都市計画課長塚田と申します。</p> <p>赤城山の関係なのですけれども、前橋市は景観計画を作っております。景観計画のテーマの一つを赤城山としております。赤城山の自然を守るという事をテーマに景観施策を行っておりますが、新しい取組としましては、群馬県が赤城山を中心としたガイドラインの取組を行っております。このガイドラインについては、群馬県と前橋市が共同でお金を出してやっております。それをキックオフとして景観のあり方の検討を進めていきたいと思っております。</p> <p>ありがとうございます。</p> |

| | |
|------|--|
| 大森委員 | <p>現在、第七次の計画で、こちらは計画なので中は難しいかもしれませんが、重要ポイントであるけれどもこの総合計画には入っていないところに、石川委員は課題感をお持ちだと思います。今後の計画策定のときに、検討するという事かなと思います。</p> <p>他にはいかがでしょうか。あとお一人くらいかなと思います。</p> <p>横田委員お願いいたします。</p> |
| 横田委員 | <p>こんにちは。地域若者会議の枠で参加をしております、横田と申します。</p> <p>昨年からは、前橋市が良すぎて前橋市に移住をしました。そこから地域若者会議に参加しているのですが、普段は若者のキャリアサポートや個性発掘教育などをやっております。</p> <p>私も初参加でどう意見をしたらよいのか伺いながらだったのですが、今回気になったのが、重点事業 No. 34「若者の定着促進」の部分になります。資料でミライバシが2年ぶりに開催されたと記載されているのですが、私は普段就職活動を楽しむ仕事などをしておりますので、その観点で気になったことがあります。</p> <p>現在の基幹産業となっている、ものづくり企業であったりとか、そういった中で働かれる方々が、自社の魅力の伝え方というところでかなり苦戦をされているお話をよく伺います。私たちも場づくりを今までやってきてはいたのですが、それだけではなくて、昨今の15歳から29歳の若者の求職者の企業選びで重視する条件TOP3が「会社の雰囲気や価値観が合う」、「社長や社員の人柄」、「ワークライフバランスがとれる」など、入った後の会社の中の雰囲気がより伝わるようなところが必要と言いつつも、企業側は説明するのはものづくりや事業の魅力、技術力がどれくらいあるかなど、素晴らしい事ですが、若者に届いていないというのが非常にもったいないなと感じています。</p> <p>従来どおりの説明会で、一方通行のアプローチになってしまうと、どうしても学生たちは聞くだけで終わってしまっていて、それだけにとどまってしまう。一旦知るという事はクリアするかもしれませんが、魅力が伝わらないというのが非常にもったいないなと思います。</p> <p>私たちも取組んだことがあるのですが、地元で働くという事は、安定感プラス、キャリアアップなどの成長機会があるという2点をバランスよく見せてあげるサポートができれば良いのではないかと感じます。</p> <p>今回、15歳から29歳若者の県外への流出などのお話もされていましたが、割合で考えると大学生以降が多いのかなという風に思うのですが、ミライバシなどの若者に対しての素晴らしいアプローチが開始しましたので、是非早期からの意識付けとして、知って終わりではなく、例えばUターンなども考えて、3年以内に帰ってきた人への「お帰りなさいパスポート」など、戻ってきたくなるような工夫した取り組みがあれば、参加するだけではなく、チケットをもらったような感覚があれば、戻ってくる魅力付けにもなるのではないかなと思いました。</p> <p>今回、地域若者会議として参加しているので、地域で働いたり活躍したりしている若者が、現地に行って、現地の参加者である高校生や若者のサポートを</p> |

| | |
|---------------|---|
| <p>大森委員</p> | <p>することが出来ればより多方面で魅力を伝えることができ、地域の定着促進につながるのではないかなと思いました。以上です。</p> <p>ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。</p> <p>まだご発言無い方もいらっしゃるかと思うのですけれども、時間がそろそろということもございまして、この後2つ議題があり、15分ほどいただきたいため、議事（1）についてはここまでとさせていただきます。</p> <p>もし、他に何かご意見がございましたら、事務局にてメールにて受け付けていただければと思います。よろしくお願いたします。</p> <p>市長はここまでということで、退席いたします。</p> <p>（小川市長、退席）</p> <p>それでは、議事（2）デジタル田園都市国家構想交付金事業について、議事（3）第七次前橋市総合計画第3期推進計画の見直しについて、一括して事務局から説明をいただき、ご意見をいただければと思います。</p> <p>それでは、事務局よろしくお願いたします。</p> |
| <p>政策推進係員</p> | <p>【(参考資料)「デジタル田園都市国家構想交付金事業について」に基づき説明】</p> <p>【(参考資料)「第七次前橋市総合計画第3期推進計画の見直しについて」に基づき説明】</p> |
| <p>大森委員</p> | <p>ありがとうございました。</p> <p>議事（2）デジタル田園都市国家構想交付金事業について、議事（3）第七次前橋市総合計画第3期推進計画の見直しについて、ご説明をいただきました。</p> <p>毎回言いますけれどもデジ田交付金は、デジ田とついているので何でもデジタルに聞こえてしまいましたが、もともと、まち・ひと・しごとの話であったので、事務局の名前が変わってデジタルとついています。デジタル多めではありますけれども、地方創生交付金という風に理解して捉えていただければと思います。</p> <p>基本的には報告事項ということですが、何かご質問等ございましたらお願いたします。</p> <p>矢端委員お願いたします。</p> |
| <p>矢端委員</p> | <p>要望なのですが、計画の改定について重点施策 No. 11「子育て世代への包括的な支援」について、直接成果に「ハイリスクである子育て世代が」と書いてありますが、「ハイリスクの子育て世代」というのはどういった意味でしょうか。</p> |
| <p>大森委員</p> | <p>ロジックツリーの上から2つ目、真ん中の直接成果の2つ目の部分です。</p> |
| <p>矢端委員</p> | <p>何かハンディキャップを持っているということでしょうか。</p> |

| | |
|------------|---|
| 林政策推進係長 | <p>そういうことです。言い方が不適切かもしれません。</p> |
| 矢端委員 | <p>そんなことはないのですが、子育て世代が皆ハイリスクなのかなと、疑問に思いました。全体に関わることなのか、それとも何かハンディキャップを持っている子どもたちについてなのかと思いました。</p> |
| 望月 こども支援課長 | <p>ご質問ありがとうございます。 こども支援課の望月と申します。よろしくお願ひいたします。 ハイリスクということなのですが、小さく生まれてしまった、障害を持っているなど、お子さんのハイリスクもありますし、中には保護者がお病気や疾病をお持ちであったり、精神的に負担がかかってしまうと子育てが大変ということであったり、あとは孤立をしてしまう方もいますので、いろいろな意味でのハイリスクとなっております。</p> |
| 大森委員 | <p>ありがとうございます。 オンラインで山形委員からご意見をいただけるそうですが、いかがでしょうか。</p> |
| 政策推進係員 | <p>チャットでいただいているので代読させていただきます。 議事（１）で山形委員さんからご意見をいただいておりますので、紹介いたします。 僕のような県外者からすると前橋はスペシャルな地域として映っております。また、デジタル活用についても多くのポジティブな意見ばかりが目につきます。ただ、これまで見させていただいて、各政策に対してデジタルの活用が、デジタルと普段の生活から切り離された印象を受けております。特に若者の定着などの視点をもつのであれば、市役所内の全ての部署が息を吸うようなデジタル活用をされていくのが良いのかなと思いました。 あと、前橋大好きです。本日は行けなかったのが残念でした。 以上となります。</p> |
| 大森委員 | <p>山形委員ありがとうございます。 デジタルの事業とそうではない事業にまだなっているという、ある企業ではもうデジタル化という言葉が当たり前だから使わないと、シンポジウムで言っていた企業がありました。そうなっていくと良いですね。 前田委員お願ひいたします。</p> |
| 前田委員 | <p>先程のご意見を聞いて思ったのですが、ハイリスクという言葉なのですが、市の総合計画の中で使われる表現として、市民が見た時に、ハイリスクと自分が言われているという視点で、どういう言葉を使うのかご検討いただければと思います。 私自身が自分はハイリスクなのだという捉え方をされてしまうことが、若干気になりました。</p> |

| | |
|------------------|--|
| <p>大森委員</p> | <p>ありがとうございます。</p> <p>矢端委員さんから始まり前田委員さんまで、とても大事なご議論があったと思います。ありがとうございます。</p> <p>ここのスライドは例示として出ましたが、例示のなかに議論ができました。これをこの後の2回の会議で全部の施策を見ていくので、細やかに委員さんには見ていただいて、市民の目線からみたときにこういう表現されるといやだなというのも当然あるでしょうし、理解が得られないのではないかというのものもあるかもしれません。是非、次回とその次の回で議論いただけるとありがたいなと思います。</p> <p>よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは、議事は以上となりますので、座長を降りさせていただきます。</p> |
| <p>阿佐美未来創造部長</p> | <p>大森委員、長時間にわたりまして円滑な議事の進行ありがとうございました。</p> <p>次に事務局から連絡がありましたらお願いいたします。</p> |
| <p>林政策推進係長</p> | <p>事務局より1点ご連絡いたします。</p> <p>本日の会議録につきましては、作成でき次第委員の皆様へ送付させていただきます。内容確認の後、ホームページで公表となりますので、ご承知おきください。</p> <p>事務局からは以上です。</p> |
| <p>阿佐美未来創造部長</p> | <p>ただいまの説明に関しまして、ご質問等はございますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>以上を持ちまして、県都まえばし創生本部有識者会議・令和6年度第1回会議を修了といたします。</p> <p>先程進行の中で大森座長からご意見やご質問等、お話ができなかった委員さんいらっしゃいましたら、後ほど事務局までお知らせいただければと思います。</p> <p>どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>本日は長時間にわたる真摯な協議ありがとうございました。</p> <p>今年度12月と2月に会議を予定させていただいております。</p> <p>皆さんお忙しい中ではあると思いますが、引き続きご協力の程よろしくお願いたします。</p> <p>本日は長時間にわたりましてご協議いただき誠にありがとうございました。</p> <p>以上</p> |